

令和7年度に実施した内部質保証における自己評価報告書

令和7年12月10日

高知大学内部質保証会議

1. はじめに

高知大学では、教育研究活動等の改善・向上に資することを目的として、令和2年3月に内部質保証会議を設置し、その後、関係規定を定め令和2年度から現在の内部質保証体制の運用を開始しています。本学では、内部質保証を「本学がその使命や目的の実現に向けて、自らの諸活動の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善及び向上に取り組むこと。」と定義しました。

高知大学内部質保証の基本方針（以下「基本方針」という。）の第2項には、内部質保証の対象となる活動を定めています。その活動について、全学的な取組を行う機構やセンター等（以下「全学組織」という。）及び各活動に関わる学部や専攻等（以下「部局」という。）が、点検・評価を行います。点検・評価は、1年に1回行うモニタリング（簡易な点検・評価）及び5年から7年に1回行うレビュー（総合的な点検・評価）によって実施されます。

本報告書は、令和7年度に実施した内部質保証の結果をまとめたものです。

2. 実施体制・手順

いずれの項目についても、令和2年度あるいは令和3年度に令和元年度の諸活動を対象にレビューを行いました。そのため本年度は、基本方針第7項（内部質保証の実施頻度）に基づき、令和6年度の諸活動を対象としてモニタリングを実施しました。

まず、各部局で点検・評価を実施し、それらの結果を参考に全学組織において点検・評価を行いました。各部局及び全学組織の点検・評価結果は、IR・評価機構を通じて内部質保証会議において集約されるとともに、改善を要する事項（課題）については、部局又は全学組織で改善計画を作成し、内部質保証会議で承認しました。部局又は単独の全学組織では対応が困難な課題については、内部質保証会議で検討を行い、担当する理事を中心に対応を行うこととしました。これらの課題については、その後の進捗確認を随時IR・評価機構が行うこととしています。

3. 総括

令和7年度に挙げられた「改善を要する事項」及び「全学での検討が必要な課題」の総数は7件であり、一昨年度の8件、昨年度の6件と比べ同程度で推移しています。挙げられた7件の事項すべてについて改善計画の策定又は改善の指示がなされましたので、本学の諸活動における質の保証や向上への取組が一層進むことが期待できます。現行のモニタリングの観点への対応が着実に実施できていることを踏まえ、さらなる質の改善・向上を図るためにも、モニタリングの観点を見直す等、内部質保証制度の充実を図っていきます。

また、「さらなる成果を上げるための活動計画」では、適切に実施されている活動であっても、より高い目標に向かってさらなる成果を上げるための取組が昨年度に引き続き多くあげられました。「優れた成果が確認できる取組」では、質保証のみならず質向上への取組が多くあげられました。

4. 改善を要する事項及び改善・向上の取組のうち主なもの

1) 学生受入に関すること

- ・一部の専攻において 2025 (令和 7) 年度の実入学者数が入学定員の 0.7 倍を下回っています。進学説明会の複数回開催、本学 OB ネットワークを活用した入試・広報や近隣の関係機関・施設への訪問といった学内外問わずアプローチを積極的に行い入学希望者の拡大に向けて取り組んでいます。

2) 研究に関すること

- ・医学教育部門では、論文・著書・学会発表等の研究成果の質及び量が部局の目標に即して適正な状況にあるかどうか十分に確認できていない状況です。医学教育創造センター年報(仮)を現在作成中ですが、この中で、医学教育部門に関する論文、学会発表などの一覧をまとめることで、状況を確認する予定です。

5. さらなる成果をあげるための活動計画のうち主なもの

1) 教育課程に関すること

- ・学び創造センターでは、現在実施している調査・アセスメントの結果を、在学中の学習成果などと結び付け、多様な視点で分析できるよう BI ツールで可視化することを計画しています。令和 7 年度中には、基本的な教学データに関して、BI ツールでの可視化を整備することを計画しています。

2) 学生支援に関すること

- ・教育学部では、高知県教育委員会指導主事と 3 年生との座談会※を令和 6 年度は急遽、試行の形で希望者に対して実施しましたが、令和 7 年度は正式なキャリア形成支援プログラムとして、学部 3 年生全員参加とし、指導主事 1 名に対して学生 10 名程度のグループが対話する形で、10 月に 2 日間に分けて実施する予定としています。

※高知県教育委員会指導主事と 3 年生との座談会：進路選択の時期を迎えた 3 年生と高知県教育委員会の現職の指導主事が膝を交え、教育実習を終えて見えた課題や、教員になった後の授業づくり、学級運営や保護者対応、また、教師の働き方改革、福利厚生など、今の教育現場の実情について対話するプログラム

- ・医学部医学科では、学生が既に良好なコミュニケーションが取れていて、自分の学修状況やキャリア形成について信頼できる教員や相談しやすい教員を自身のアドバイザー教員に選択できる「選択アドバイザー制度」を試験的に導入し、アドバイザー教員の役割をより実効的なものにすることを目指しています。

3) 地域連携に関すること

- ・令和6年度「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」(※1)に採択された「しまんと海藻エコイノベーション共創拠点※2」について、多様なステークホルダーをまきこみ、「組織」対「組織」の産学官共創によるイノベーション・エコシステム構築の実現に向けて取り組みます。

※1 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)：国立研究開発法人科学技術振興機構による大学や国立研究開発法人、企業、自治体などが連携して、未来の社会像を実現するための研究開発を推進するプログラム

※2 しまんと海藻エコイノベーション共創拠点：本学を代表機関として、自治体や企業と共同提案した「海藻を基盤としたイノベーションにより持続可能な地域産業と地域社会を共創する」を拠点ビジョンとしているプロジェクト

4) 研究に関すること

- ・海洋コア国際研究所では、室戸世界ジオパーク内に設置しているサテライトラボを活用し、自然科学リテラシー教育とボトムアップの地域振興に取り組みます。

5) 図書館及び ICT に関すること

- ・学術情報基盤図書館では、本学構成員の情報セキュリティ意識を一層高めるため、新たな情報セキュリティ研修動画の作成に取り組んでいます。また、構成員全員の受講を目標としており、未受講者に対する本学ネットワーク及びシステムの利用制限を行うための仕組み構築にも取り組んでいます。

6. 優れた成果が確認できる取組のうち主なもの

1) 教育課程に関すること

- ・教師教育センターでは、教育実習校に向けた教育実習における合理的配慮の具体的な方法を示したハンドブックを作成しました。これによって、合理的配慮を必要とする学生のニーズに応じた教育実習の履修の質の確保や事前相談の具体化に資するものとなりました。

2) 学生支援に関すること

- ・希望創発センターが実施する「希望創発研究会」において、参画者個人の思考行動変容を可視化するために、心理的資本診断 (HEROIC) を試行的に実施しました。各自の思考行動変容の自覚化支援及び派遣企業へのフィードバックにより研修機能を高めることができました。

3) 学生受入に関すること

- ・私費外国人留学生選抜において、国内の高等学校に通う外国人留学生を対象とした選抜の実施を検討し、2026年度入試から一部の学部・学科で新たに実施することを決定しました。

4) 地域連携に関すること

- ・次世代地域創造センターでは、地方創生推進士について年間目標数 30 名を上回る 39 名の認証を行いました。また、過年度認証生の活動に関する報道件数も年間目標数の 5 件を上回る 12 件の活動成果が見られ、本学の特色ある地方創生人材育成が着実に進められています。

5) 研究に関すること

- ・海洋生物研究教育施設において、研究調査船豊旗丸を43年ぶりに更新しました。より高い安全性と調査性能が確保され、これまで以上に利用者の要望に応えられる体制が整ったことで学内外の利用回数が令和5年度79件から令和6年度は101件へと大幅に増加し、本学の教育研究の推進に貢献しています。

6) 図書館及びICTに関すること

- ・学術情報基盤図書館では、令和7年3月に高知大学オープンアクセスポリシーを策定し、本学におけるオープンアクセス（グリーンOA）方針等について学内周知を行いました。

また、人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金（オープンアクセス加速化事業）（※）の採択を受け、オープンアクセス推進に係る環境開発として、「教員活動の記録・評価システム」の改修及び「リポジトリ管理システム」を新規構築し、教員・リポジトリ担当者双方が効率的に申請手続き及びリポジトリ登録作業を行える仕組みを整備しました。

※人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金（オープンアクセス加速化事業）：文部科学省による大学等による研究成果（学術論文・研究データ等）の管理公開に関する体制の充実・強化を図り、産業界等にも開かれた知へのアクセスを担保することで、研究成果の発信力を強化し、我が国の競争力を高めることを目的とする事業

【本報告書に関するお問い合わせ先】

法人企画課 IR・評価室

Tel：088-844-8914

E-mail：hj11@kochi-u.ac.jp